

○意見要旨は、対応・検討を求めるものや提案・提起いただいているものを抽出しています。

○何度か事務局とやりとりをされている場合は1つの意見に集約しています。

◆全体

番号	委員名	意見要旨	対応（案）
1	宮地委員	市民アンケート調査結果について、「今後も犬山市に住み続けたいと思いますか。」「犬山市の現状に満足していますか。」という設問については、前回と比較し、その傾向を報告してほしい。	令和3年度及び令和元年度に同様のアンケートを実施しているため、その経年変化が分かる資料を提出します。
2	宮地委員	市民アンケート調査について、70歳以上の回答率が高かったという報告だが、配布時の年齢構成等についても検討が必要ではないか。	調査票送付時の年齢構成の比較及び年代別の回答割合について比較し、資料にて報告します。
3	鈴木（伸）委員	若者が犬山の良さや希望を感じ、市民であることの喜びや誇りをもってくれるためのミニ冊子を作製してはどうか。	第1期いいね！いぬやま総合戦略策定時には、概要版を作成し、市ホームページなどで公表していました。また、令和7年度中のリニューアルを予定している市広報紙でも、現行よりもまちの姿や魅力を紹介できるコーナーを設けることも現在検討しています。
4	鈴木（伸）委員	資料3「（仮）いいね！いぬやま総合戦略2025-2030」素案について、「目指す姿」として「デジタルの活用」と記載しているが、当たり前のことなので、不要ではないか。	「デジタルの活用」は、現在、本市の重点施策としても位置付けており、また、今後の市民サービスをより便利に充実させる上で不可欠な要素であるからこそ、3つのまち（暮らしたいまち・活躍したいまち・訪れたいまち）を実現するための視点として記載を予定します。
5	鈴木（伸）委員	資料3「（仮）いいね！いぬやま総合戦略2025-2030」素案について、「目指す姿」として「民間の力」、「人材の発掘」と記載しているが、内容が重複しているように感じる。「多様な主体と連携・協働」にまとめられるのではないか。	視点として同一内容と理解されることのないよう、各視点のポイント（説明文）を整理するとともに、視点自体も会議での委員意見を参考に再考します。
6	鈴木（伸）委員	資料3「（仮）いいね！いぬやま総合戦略2025-2030」素案について、「財源の工夫」として「ふるさと納税やクラウドファンディング」と記載しているが、これらは制度が変われば大きく変わる内容のため、自治体としてもっと安定的な財源確保策を基本とすべきではないか。	様々な施策を推進していくためには、安定的な財源確保が基本であると考えます。特に市税収入の確保が重要であり、企業誘致や移住定住の推進等による法人、個人市民税の確保に努めていきます。このような安定的な財源確保策に加えて、ふるさと納税やクラウドファンディングによる財源の確保も図っていきます。

番号	委員名	意見要旨	対応（案）
◆Aグループ			
7	宮地委員	市民アンケート調査について、問5「NP0・ボランティア活動を行っていますか。」という設問で「はい」と答えた人が少ないと感じるが、傾向としてはどうか。 ボランティア活動を啓蒙、参加促進ための取組みを市はしているか。	令和3年度及び令和元年度に同様のアンケートを実施しているため、その経年変化が分かる資料を提出します。 ボランティア募集は、市広報やホームページ、SNSなどを通じて周知を行っています。市民が自発的、自主的に活動するものであるため、行政は側面的支援をしています。
8	佐曾利委員	市民アンケート調査について、問5「NP0・ボランティア活動を行っていますか。」という設問において、「市民活動」や「NP0」という言葉はわかりにくかったのではないかと。 町内会等との関わりについて実態が見える項目があってもいいと思う。	今回は、過去のアンケート調査との比較分析のため、前回の調査と同様の文言にしていますが、次回以降の調査実施時には、定義を加える、文言を工夫するなどを検討が必要だと思います。
9	酒向委員	民間の力の活用や、人材の発掘・育成には市民の力が必要になるので、次期総合戦略に、こういったワードを入れるのであれば、反映できるようなアンケートの取り方が必要になるかもしれない。	今回は、過去のアンケート調査との比較分析のため、前回の調査と同様の文言にしていますが、次回以降の調査実施時には、見直し前の計画内容に基づく設問を加えるなどを検討が必要だと思います。
10	関谷委員	市民アンケート調査の結果について、設問ごとに年齢別の構成割合がある程度必要かと思う。	最終的なアンケート調査結果報告書では、より詳細で・細分化した調査結果を示すようにしていきます。
11	酒向委員	市民アンケート調査に回答しなければならないという意識をもってもらうことが必要だと思う。	今回のアンケート調査は、回収率を高めるため、前回調査に比べ大幅に設問数を減らし、過去同様、webでの回答も受け付けました。今後も、回収率をあげる工夫は検討していきます。
12	宮地委員	市民アンケート調査について、高齢者の回答率が多いという傾向があることから、若者の回答数を増やすために、年齢層で配付数を変更する、ということは可能か。 若者の意見が大切だと思うので、若者と高齢者の回答数の差が縮まるような調査の方が有用と思う。	世代別人口の割合に応じた数を調査対象者として無作為抽出し、アンケート調査を実施しました。
13	増田委員	市民アンケート調査の回答者はある程度、犬山市に前向きな印象を持っている人、興味のある人が回答していると思うので、そうでない人、興味のない人、前向きな印象を持っていない人の声を拾える仕組みがあるといいと思った。	無作為抽出により調査対象者を選ぶことで、様々な考えやまちへの印象を持っている方に意見を伺う機会は設けているため、調査自体の回収率をあげる工夫を検討していきます。

番号	委員名	意見要旨	対応（案）
14	宮地委員	資料3の4ページ中、「市内で買い物する人が少ない」と記載があるのは、大型商業施設がないからと思う。何とか大規模商業施設を犬山市に誘致してほしい。	大型商業施設が立地するには、用地の確保や都市計画法の規制など課題もありますが、周辺の生活環境や市内商業者への影響が大きいため、市が自ら大型商業施設を誘致する計画はありません。
15	宮地委員	資料3の4ページ中、「耕作者の高齢化や農地保全の対応が必要」との記載について、耕作放棄地が増加している一方で、行政として具体的な取組みができていないので、成果を上げるために具体的な施策に取り組んでほしい。	耕作放棄地に対する取組としては、市農業委員会と連携して放棄地を解消するため、耕作放棄地の所有者と市内農業者に働きかけを行い、農地の貸し手と借り手のマッチングを行っています。 また、耕作放棄地の解消を行う農業者で要件を満たす者には、犬山市荒廃農地等利活用促進事業補助金を交付しております。これらの取組や補助事業を活用し耕作放棄地の解消に努めていきます。
16	佐曽利委員	資料3 目指す姿の「子育て支援と教育に力を入れています！」とその下に記載の言葉とのつながりが見えてこない。6つの言葉の説明に具体性があるといい。	委員ご指摘の視点をもって各視点のポイント（説明文）を整理します。
17	佐曽利委員	資料3 目指す姿の「民間の力を活用」という文言が誰目線なのか不明。「私たちの力を発揮」という標記であれば、主体的に考えることができると思う。	資料3 目指す姿の実現のための6つの視点は、行政の視点でなく、犬山市全体での視点としての表現となるよう検討します。
18	増田委員	資料3 11ページ中「などなど」の意味がわからない。	資料中では、「誰ひとり取り残さない」、「子育て支援と教育に力を入れている!」、「地域資源が豊富」の3点を犬山市の魅力として掲載していますが、市の魅力はその3点に限定しませんので、その他もたくさんある、という趣旨で「などなど」と表現しております。 また、この標記は過去の戦略から記載しているものです。
19	佐曽利委員	資料3 11ページ下段「民間の力を活用」と「多様な主体とも連携協働」は似ている。また、この文言で、犬山市で暮らし続けるイメージは湧かないので、具体性があつた方がいいのではないかな。	視点として同一内容と理解されることのないよう、各視点のポイント（説明文）を整理するとともに、視点自体も会議での委員意見を参考に再考します。
20	増田委員	資料3 6ページ「新市街地の形成」という言葉が突然現れるのが不自然だと感じる。また、空き家問題も発生しているので、既存の住宅等も踏まえて「不動産の流通化」という言葉でもいいのではないかな。 今ある団地なども大事にするということがわかるようにした方がいい。	総合戦略は、新たに実施する内容に主眼を置き記載していますが、今後取り組む事項として、空き家の活用なども重要な視点であるため、いただいた意見をもとに、掲載内容については再度検討します。
21	宮地委員	資料3、6ページ中の「新市街地の形成」について、どういうイメージで考えているか。	新市街地の形成は、犬山市都市計画マスタープランにおける市街化調整区域の土地利用方針に位置づけた「新市街地検討エリア」において、地区計画制度の活用や土地区画整理事業により、定住人口の受け皿となる住宅地の確保のほか、橋爪・五郎丸地区（名鉄小牧線東側の国道41号沿道地区）では、商業・交流施設の立地を図るため、市街化区域編入による新たな市街地の形成を目指しています。

番号	委員名	意見要旨	対応（案）
22	酒向委員	資料3、11ページ中「デジタルの活用」はいいと思うが、高齢者が活用できるのか。	デジタル活用支援について、今後はスマホの活用など集団での講座を実施予定です。開催にあたっては、高齢者が参加しやすいよう小規模の講座を市内各所にて実施したいと考えています。また総務省デジタル活用支援推進事業を活用するなど支援に努めてまいります。
23	佐曽利委員	子育て世帯が犬山市に住み続けるために、今大変なことは何かが気になった。この世帯の定住には、デジタルの活用が必要なのか、商業施設が増えるといいのか、など暮らしと子どもがどう関係するのかがわかるとよい。	第6次犬山市総合計画策定にあたり、令和3年7月に実施した若者・子育て世帯を対象とした市民意識調査では、若い人が住み続けるために必要だと思う項目として、「商業施設を増やすこと」「子育て環境が充実していること」「働く場があること」が上位でした。今回の総合戦略の策定にあたっては、これらの結果を参考として、重点事業や取組みを検討します。

番号	委員名	意見要旨	対応（案）
◆Bグループ			
25	中山委員	市民アンケート調査に自由記載欄があった方がいいと思った。	今回のアンケート調査は、市民の意識や考えなどの傾向や、過去の調査結果との推移を把握するところを重点に実施しました。そのため、市民のみなさんからの自由記載欄は設定しませんでした。ご意見やご提案などについては、市ホームページなどからも常時受け付けていますし、アンケート調査の目的などによっては、広く意見を収集する仕組みを検討します。
26	紀藤副会長	他市町に住む人から羨ましがられる犬山市民の特典があれば、まちに愛着も湧き、住みたい、住み続けたいと思ってもらえるのではないかと。具体的な取り組みをすることで、人口減少が止めることができると思う。	施設の入場優待に限らず、市民が犬山に住み続けたい、市外の方が犬山に移り住むことを魅力に感じることに繋がる施策や事業の検討は、定住・移住の促進となりますので引き続き実施していきます。
27	紀藤副会長	児童センター・児童クラブの施設が古く、密集した状態で実施しているため、そこが解決すると子育てしやすいまち、誰もが住みたくなるまちになるのではないかと。	子ども未来園や学校は、順次、新園の建設や改修などを実施し、児童クラブも、小学校の中に新たに教室を整備するなどの整備を順次実施しています。子育て施策の充実は、引き続き今後重点的に取り組むべきことであり、総合戦略の中でも位置付けていきます。
28	鈴木（温）委員	アンケート結果をみると、インフラ整備や公共交通などハードに関する項目の評価が低いと、一方で戦略の目指す姿はソフト面のみの記載であるため、ミスマッチになっている。ハード整備も含めたものを考えた方がいいのではないかと。	目指す姿は、犬山市の今後の大きな方向性を示すものとし、ハード整備も含めた内容は、重点事業や取り組みの中で示していきます。
29	玉置委員	犬山市を知ってもらうために、観光客が多い城下町などにブース出展をする、PRする場を設けるなどの取り組みをしてはどうか。	城前の観光案内所などに、プロモーション冊子の設置など観光情報だけでなく、住むまちのPRにもつながる情報を発信する方法や可能性を検討しています。
30	中山委員	病児保育の制度ができ、仕事をしながらでも子育てがしやすい環境が整っていると思うが、病児保育の利用には書類が多く、手続きも複雑で時間、手間がかかるときいたので、手続き方法が改善されれば、犬山市で働きたい、住みたいと思う人が増えるのではないかと。	病気回復期にないお子様をお預りすることになるため、必要な書類提出については理解をいただきたいと思います。ただ、オンラインによる利用申請の導入事例などもあることから、手続き方法などについては検討していきます。
31	玉置委員	未満児の療育について、他市では対応している症状（プラダー・ウィリ症候群）だったが、犬山市では対応していないと言われた事例を聞いた。すべての事例に対応することは難しいが、他市でできるのであれば、犬山市でも対応できるようになるといい。	犬山市でも他自治体と同様に対応できます。ただし、利用者が希望する施設に空きがない場合や医療的ケアの必要な児童を看護師の配置がない事業者が受け入れることができないなど、人員配置の問題や施設の状況の理由により、対応できない場合もあります。

番号	委員名	意見要旨	対応（案）
32	玉置委員	公共施設の利用について、空き状況がオンラインでわかるものとそうでないものがあるので、不便。 空き状況が確認できても、オンラインでの予約は対応していないので、オンライン化してもらいたい。	公共施設の空き状況をオンラインで確認可能にするには、各施設の窓口で書面での利用受付をした際、その場で専用システムへの入力作業が必要となるなどの新たな作業が発生します。そのため、施設にはシステムに接続したパソコンなどの設置と、システムへの入力操作などができるスタッフの配置となるため、利用者層や稼働率などの施設の特性や、施設の管理体制をもとに、「オンライン非対応」、「オンラインで空き状況の閲覧のみ対応」、「オンラインで空き状況の閲覧・予約手続のどちらも対応」の判断をしています。 施設の予約及びキャンセルがオンラインで完結できる仕組みについては、時期システムへの更新を見据えて各課との相談のうえ検討していきます。
33	松浦委員	犬山市の子育てや教育に関するサービスは、とてもいいものを提供しているのに、市民や市外の人には知らないと思うので、もっとPRするべきだと思う。	現在、市民や市外の人に「住むまちいぬやま」としての魅力を知ってもらうために、関連する情報をまとめたウェブサイトの運営や冊子の配付等を実施しています。今後も、子育てや教育に関する内容を含めて、市民や市外の人に本市の住むまちとしての魅力が伝わるよう、積極的な情報発信を実施していきます。